

# 三好市の野鳥生息状況

鳥類班 (日本野鳥の会徳島県支部)

東條 秀徳\* 笠井 正 高井 正明 富峯 康代 三井 義雅 三ツ井政夫  
三宅 武 山口 治子 米田 保子

**要旨**：四国の中間に位置する三好市の西部地区を主要な調査範囲とし、2016年9月～2018年9月の約2年間観察した結果、17目48科117種の野鳥と3種の外来種鳥類を確認した。この内、徳島県および／または国のレッドリスト掲載種は24種であった。三好市を代表する環境として高原を選定し、7カ所で観察したところ、1カ所あたり27～54種、合計79種の野鳥を確認した。ヒトの生活に身近な環境として小学校10校の周辺を選定し、周年観察したところ、1地区あたり26～37種合計65種の野鳥を確認した。秋のタカ渡り観察で、西に向かう多数のサシバとノスリを計数した。特定外来種のソウシチョウを市内各地で確認した。野生哺乳類12種を確認した。

**キーワード**：三好市、野鳥、タカ渡り、ソウシチョウ、哺乳類

## 1. はじめに

三好市は、徳島県の西端に位置し721.48km<sup>2</sup>と県内最大面積を有する自治体である。市のほとんどは、四国山地および吉野川本流とその多数の支流が刻んだ渓谷となっている。渓谷部には雲海がしばしば発生し、当地を代表する景観の一つとなっている（写真1）。市面積の87%は林野で、その約6割が人工林で4割が天然林である。樹種構成では、人工林の

ほとんどは針葉樹、逆に天然林のほとんどは広葉樹である。耕作地は少なく、吉野川の本流および支流沿いの平地や山地斜面の集落周辺および北部山地尾根などに分散している。

集落は、吉野川本支流沿いの河岸段丘上や山地斜面中腹に分布するが無住の家屋も目立つ。

鳥獣保護区等としては、隣接市町に跨る国指定の剣山山系と徳島県指定の箸蔵（530ha）、雲辺寺（100ha）、竜ヶ岳（470ha）、大歩危（500ha）、野鹿池（10ha）が設定されている。さらに池田ダムの上下流の吉野川などに特定獣具（銃器）使用禁止区域が、剣山系に指定獣法（くくりわな）禁止区域が設定されている（平成29年度徳島県鳥獣保護区等位置図）。

調査範囲は三好市全域としたが、特に、阿波学会調査では未調査の旧西祖谷山村と、前回の調査から経過年数が長い旧山城町、旧池田町を主要な観察地域とした。さらに、三好市を代表する環境として「高原」を選出し、塩塚高原など市西部の7地域で反復観察した。さらに、市西部の小学校10校（櫻宇、

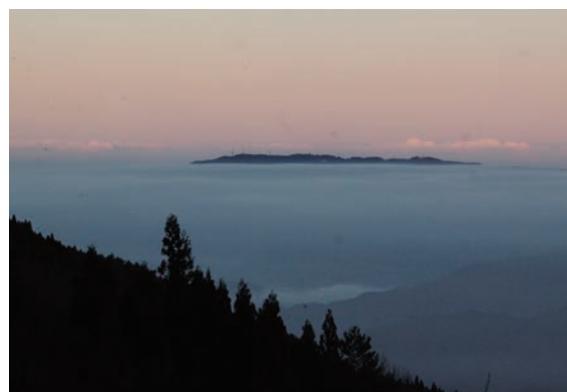


写真1 雲海に浮かぶ雲辺寺山

\* 〒770-8025 徳島市三軒屋町外24-77 088-669-3750

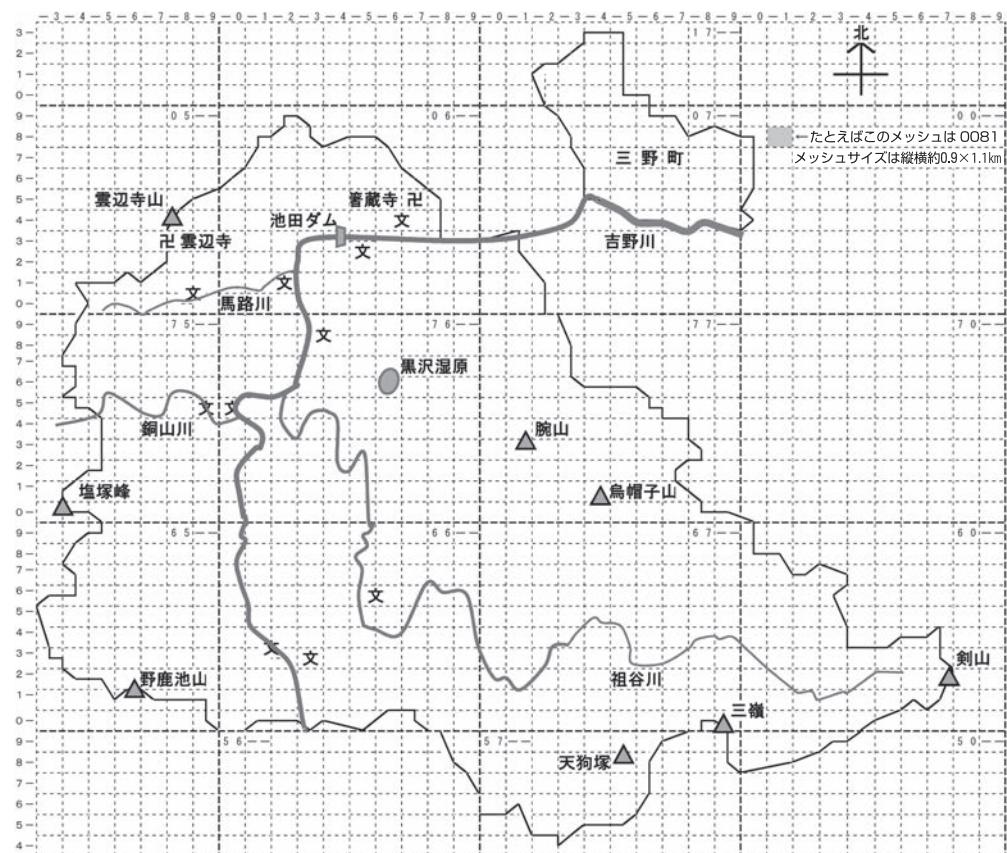


図1 調査用メッシュ地図

吾橋, 下名, 政友, 山城, 馬路, 三繩, 白地, 池田, 箕蔵) 周辺で, ヒトの生活周辺の野鳥生息状況調査を行った。調査期間は2016年9月下旬~2018年9月上旬までの約2年間。なお, 冬季は積雪や路面凍結, そして2018年夏季は豪雨災害のため山間部の調査が制限された。双眼鏡, 望遠鏡, カメラ等を使い見聞きして確認した種と個体数を記録した。記録に際し, 正確な地名表記が困難なこともあるため, 「都道府県別メッシュマップ36徳島県」の3次メッシュコードの下4桁を併記した(図1)。

また、野鳥の調査に際し野生哺乳類を確認する機会が比較的多くあること、さらに阿波学会の調査班の中に野生哺乳類を担当する班が存在しないことから、本報告の中で三好市の野生哺乳類の生息状況についても付記した。

## 2. 高原の野鳥 (表 1)

三好市の代表的な高原環境として、地理的分布と調査地への交通を考慮し、池田町の雲辺寺山（以下雲辺寺と略す。最高標高約920m）、雲辺寺から東へ

延びる尾根上の農地開発事業池田地区（以下開発と略す、最高標高約810m）、黒沢湿原（以下黒沢と略す。最高標高約590m）、西祖谷山村の腕山放牧場（以下腕山と略す。最高標高約1,300m）と坂瀬谷（以下坂瀬と略す。最高標高約1,000m）、山城町の野鹿池山（以下野鹿池と略す。最高標高1,294m）、塩塚高原（以下塩塚と略す。最高標高1,043m）を選び、反復観察した。なお、前述した理由で腕山、坂瀬、野鹿池、塩塚では冬季観察は実施していない。その結果、7地区合計で79種の野鳥と3種の外来種を確認した。各地区的概要は次のとおりである。

**雲辺寺**：讃岐山脈西端に位置する山地で、頂上近くに四国霊場66番札所の雲辺寺がある。参道沿いはモミ、スギ、アカガシなどの大木の林となっている。当地では周年観察した結果54種を確認した。県内の標高1,000m超の自然林で観察されるオオアカゲラ、ゴジュウカラ（写真2）など主に森林生息性の野鳥が多種を占めるが、県境を越え上空を往来するカワウ（写真3）とミサゴ、さらに春秋には渡りのタカ類も多種観察された。

表1 高原の野鳥

種名	雲辺寺	開発	黒沢	腕山	坂瀬	野鹿池	塩塚
1 ヤマドリ					○		
2 キジ						○	
3 キジバト	○	○		○	○	○	○
4 アオバト	○		○		○	○	○
5 カワウ	○						
6 アオサギ			○				
7 ジュウイチ	○				○		
8 ホトトギス	○	○				○	○
9 ツツドリ	○	○	○			○	○
10 カッコウ	○	○		○		○	○
11 ヨタカ	○					○	
12 アマツバメ	○						
13 ミサゴ	○						
14 ハチクマ	○						
15 トビ	○	○		○	○		○
16 ツミ	○						
17 ハイタカ	○		○				
18 オオタカ	○						
19 サシバ	○						
20 ノスリ	○	○					
21 クマタカ				○			
22 アカショウビン	○						
23 コゲラ	○	○	○		○	○	○
24 オオアカゲラ	○		○				
25 アカゲラ			○				
26 アオゲラ	○	○	○	○	○	○	○
27 チョウウゲンボウ	○						
28 チゴハヤフサ	○						
29 ハヤブサ	○						
30 サンショウクイ			○			○	
31 モズ	○	○		○	○		○
32 カケス	○		○	○	○	○	○
33 ハシボソガラス	○	○	○				
34 ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○
35 キクイタダキ					○		
36 コガラ			○	○	○	○	○
37 ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○
38 ヒガラ	○		○	○	○	○	○
39 シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○
40 ヒバリ				○			
41 ツバメ	○	○	○	○	○		○
42 イワツバメ	○						
43 ヒヨドリ	○	○	○		○		○
44 ウグイス	○	○	○	○	○	○	○
45 ヤフサメ						○	
46 エナガ	○	○	○	○		○	○
47 メボソムシクイ			○				
48 センダイムシクイ			○	○	○	○	○
49 メジロ	○	○	○				
50 セッカ						○	
51 キレンジャク			○				
52 ゴジュウカラ	○			○	○	○	
53 ミソサザイ	○		○		○	○	○
54 トラツグミ	○				○	○	
55 クロツグミ	○	○	○		○	○	○
56 シロハラ		○				○	○
57 アカハラ					○		
58 ツグミ	○	○	○		○		
59 コルリ					○		
60 ルリビタキ	○		○		○		
61 ジョウビタキ			○		○		
62 エゾビタキ	○						
63 コサメビタキ	○	○			○	○	○
64 キビタキ	○	○	○	○	○	○	○
65 オオルリ	○	○	○	○	○		
66 キセキレイ	○	○	○	○	○		○
67 ピンズイ			○				
68 タヒバリ				○			
69 アトリ	○	○	○	○	○		
70 カワラヒワ	○	○	○	○			
71 マヒワ	○		○	○	○	○	
72 ベニマシコ					○		
73 ウソ			○	○			
74 イカル	○	○	○	○	○	○	
75 ホオジロ	○	○	○	○		○	○
76 ホオアカ							○
77 カシラダカ	○	○					
78 ミヤマホオジロ	○	○		○			
79 アオジ	○	○				○	
野鳥種数	54	32	41	28	37	27	33
外 来 種	コジュケイ	○	○				
	ソウシショウ	○	○	○		○	○
	ガビチョウ類					○	



写真2 季の根元で餌を探すゴジュウカラ



写真3 県境を越え飛ぶカワウ



写真4 湿原の上を舞うアオサギ

**開発**：標高約700～800mの尾根に開発された農地だが、現在は過半が休耕または耕作放棄地となり原野化傾向にある。期間中に、観察地域の西端に太陽光発電所が開設された。主要な植生は、畑地、草原、広葉樹と針葉樹の混交二次林である。周年観察により確認した種は、森林あるいは林縁を主な生息環境とする32種であった。

**黒沢**：周囲をアカマツ林に囲まれた盆地で、中央の湿原は多種の湿地性植物が発育するヨシ原となっている。しかし、湿原といいながら今回調査で確認

された41種の中で、水鳥または水辺の野鳥は、アオサギ（写真4）とキセキレイの2種のみで、他は森林あるいは林縁を主な生息環境とする種であった。なお、今回の調査では、県内では記録の少ないアカゲラとキレンジャクを確認した。

**腕山**：腕山（1,334m）の南西尾根に開設された55haの放牧場で、6月～10月の約4ヶ月間は牛が放牧されている。主要植生は草原と周辺の落葉広葉樹林で、牧場内にはアカマツ林やミズナラ林が残されている。当地でも確認種28種のほとんどが森林あるいは林縁を主な生息環境とする種であったが、草原を主要な生息環境とするヒバリとタヒバリも、それぞれ複数個体群が観察された。また、上空を往復するクマタカのペアも観察された。

**坂瀬**：鳥帽子山（標高1,670m）の西に刻まれた谷で、主要な植生はスギ植林と広葉樹二次林および伐開地で、一部に無住の集落跡が存在する。当地では確認種37種のすべてが森林あるいは林縁を主な生息環境とする種であった。

**野鹿池**：高知県境に位置する山地で、主要植生は、地表にオオミズゴケが発育する凹地と下層に笹原が広がる落葉樹の山林である。この笹原は、2017年夏に一斉開花し、その後全面枯死した。下部周辺にはスギ・ヒノキ植林が広がっている。当地でも確認種27種のすべてが、森林あるいは林縁を主な生息環境とする種であった。

**塩塚**：愛媛・高知県境に位置する高原で、主要植生は、ススキ原とその下部に広がる広葉樹二次林である。ススキ原は野焼きにより維持されている。

当地でも確認種32種のほとんどが森林あるいは林

縁を主な生息環境とする種であったが、草原を主要な生息環境とするセッカとホオアカ（写真5）が繁殖時に観察された。

また、高原の観察地の一部で夜間観察を行い、雲辺寺と野鹿池でヨタカを確認した。また、雲辺寺、開発、黒沢、野鹿池、塩塚の5カ所では特定外来種ソウシチョウを確認した。

### 3. ヒトの生活に身近な環境の野鳥（表2）

三好市西部で現在開校中の10小学校の周辺で、原則月1回（1地域10～12回、合計114回）観察した結果、1地域あたり26～37種（平均32.7種）、合計65種の野鳥と3種の外来種を確認した。

確認種をその生息環境で分類すると、森林、林縁あるいは草原を主な生息環境とする種が50種、水辺環境を主な生息環境とする野鳥が15種であった。

10地域すべてで共通して確認された種は、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、カワラヒワ、ホオジロの8種の留鳥と冬鳥のジョウビタキで合計9種であった。8地域以上で確認された種は、留鳥でキジバト、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイの7種、冬鳥のシロハラとツグミの2種、夏鳥のツバメとコシアカツバメの2種の合計11種。すなわち、これら20種が三好市西部のヒトの生活圏内で普通に生息している野鳥といえるであろう。

また、当地域で注目される野鳥としてコシアカツバメ（写真6）とイソヒヨドリ（写真7）が挙げられる。

コシアカツバメは、県内では普通種だが、近年は営巣地が減少している種である。しかし、今回の調査では、政友地区を除く9地区で生息確認され、個体が未確認の政友小学校でも特徴的な巣が作られていた。さらに三縄小学校と池田小学校および箸蔵小学校、櫟宇小学校近所と下名小学校近所の集合住宅などのコンクリート製建築物で集団営巣を確認した。当地区の生息密度は非常に高く特徴的である。

イソヒヨドリは海岸地域には普通に生息し、近年は内陸部へも生息拡大しつつある種である。三好市の過去の阿波学会調査記録（山城町の野鳥、郷土研



写真5 杭の上でさえずるホオアカ

表2 三好市西部の小学校周辺で確認した野鳥

No.	種名	櫟宇	吾橋	下名	政友	山城	馬路	三縄	白地	池田	箸蔵
1	キジ										●
2	オシドリ	●			●				●	●	
3	マガモ							●		●	
4	カルガモ						●			●	
5	コガモ			●		●				●	
6	カツブリ							●	●	●	
7	キジバト	●	●		●	●	●	●	●	●	●
8	アオバト			●	●	●	●	●	●		
9	カワウ		●	●	●	●	●	●	●		
10	アオサギ		●	●	●	●	●	●	●		●
11	ダイサギ							●	●		
12	オオバン									●	
13	ホトトギス		●					●	●	●	
14	ツツドリ	●						●	●		
15	ミサゴ									●	
16	トビ	●		●	●	●		●	●	●	●
17	ツミ						●				
18	ハイタカ						●				●
19	サシバ			●	●	●					
20	ノスリ			●	●	●					●
21	クマタカ	●									
22	カワセミ			●		●					
23	コゲラ	●	●	●	●	●		●	●	●	
24	アオゲラ							●	●		
25	チョウゲンボウ									●	
26	ハヤブサ		●			●					●
27	サンショウクイ	●			●	●					
28	モズ	●			●		●	●	●	●	●
29	カケス	●	●			●					
30	ハシボソガラス	●		●	●	●	●	●	●	●	●
31	ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
32	ヤマガラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
33	シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34	ツバメ	●		●	●	●	●	●	●	●	●
35	コシアカツバメ	●	●	●		●	●	●	●	●	●
36	イワツバメ	●									
37	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
38	ウグイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
39	エナガ	●	●		●			●	●	●	
40	センダイムシクイ				●						
41	メジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
42	ミソサザイ		●	●	●						
43	ムクドリ						●	●	●	●	
44	カワガラス	●	●	●	●	●	●				
45	シロハラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
46	ツグミ	●		●	●	●	●	●	●	●	
47	ルリビタキ		●								
48	ジョウビタキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
49	イソヒヨドリ	●				●	●	●	●	●	
50	エゾビタキ								●		
51	コサメビタキ					●					
52	キビタキ	●	●	●	●	●		●	●		
53	オオルリ	●	●	●	●	●	●				
54	スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
55	キセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
56	ハクセキレイ					●					
57	セグロセキレイ	●		●	●	●	●	●	●	●	
58	ビンズイ							●			
59	アトリ		●				●				
60	カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
61	イカル		●			●	●	●	●		
62	ホオジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
63	カシラダカ						●				
64	ミヤマホオジロ	●									
65	アオジ		●	●	●	●	●	●	●	●	
	野鳥種数	32	26	28	34	33	37	37	30	36	34
外 来 種	コジケイ		●	●							
	ドバト(カワラバト)								●	●	
	ソウシチョウ				●			●			



写真6 巣材の泥を集めるコシアカツバメ達



写真7 イソヒヨドリ雄

究発表会紀要24, 45~47), (池田町およびその周辺の野鳥, 郷土研究発表会紀要26, 91~98), (井川町の鳥類, 阿波学会紀要44, 61~83), (三野町の野鳥生息状況, 阿波学会紀要49, 37~50), (三好市「旧東祖谷山村」の野鳥生息状況, 阿波学会紀要53, 43~55) でも本種の記録はなかったが, 本調査では, 河口から100km以上の上流に位置し周囲を1,000m以上の四国山地の山々に囲まれた櫟宇小学校周辺を含む7地域と, 広範囲で生息を確認した。すなわち, 本調査により, イソヒヨドリの生息域の拡大があらためて確認された。

本調査と類似の調査が, 徳島県東部の阿南市で行われている。春夏秋冬各1回, 市内24小学校の周辺で実施した, 合計96回の観察結果がある。1地域あたり17~31種(平均約24種)合計67種の野鳥が記録されている(第四章阿南市の動物 第二節鳥類, 阿南市史5, 209~221)。1地域あたりの種数は本調査の平均32.7種に比して少ないのは, 1地域あたり調査回数が4回と少ないことによると思われる。一方, 合計の調査回数96回で観察された合計種数は67

種で、本調査の65種と近似していた。しかし、この67種を生息環境で分類すると、40種が森林、林縁あるいは草原を主な生息環境とする種で、27種が水辺環境の野鳥であった。この数字の差は、標高が示唆する地理的環境の差違（阿南市調査地の標高は1m以下～86m、三好市の調査地は90～440m）の反映と思われる。

#### 4. タカの渡り（表3）（写真8, 9, 10）

多くの野鳥と同様、タカ類の多くも繁殖地と越冬



写真9 ノスリの群れ



写真8 上空で旋回上昇するサシバの群れ



写真10 ハチクマ 県境を越えて高知に向かう

表3 三好市のタカ渡り記録

	観察地	観察日	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他
秋の渡り	池田町佐野	2016.9.24	37	36			
		2016.9.30	1,568	12	1		
	池田町雲辺寺	2016.10.16	1		11		オオタカ2ツミ1
秋の渡り	池田町雲辺寺	2017.9.10	3	2			
		2017.10.8	3	1			
	池田町丸山公園	2017.9.18	2	7	1		
		2017.9.23	133	7	3	▲1	
		2017.9.24	298	28	2	▲3	ツミ2
	池田町境目	2017.10.1	186	7	13		オオタカ1
	西祖谷山村京柱峠	2017.10.4	56		1		タカsp.1
	東祖谷山村土佐矢筈山	2017.10.8	103	1			
	池田町洞草	2017.10.26			398	▲20	チゴハヤ1
		2017.11.3			6	1 ▲4	
		2017.11.15			8	4	ツミ3

備考：ハイタカの欄の▲を付した数字は東行き（所謂逆行）の個体。

	観察地	観察日	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他
春の渡り	池田町雲辺寺	2017.3.11				△2	
		2017.5.7		2			ツミ2
渡り	池田町境目	2018.3.17			15		オオタカ1
	池田町箸蔵山	2018.3.31	5		3		
	池田町丸山公園	2018.5.12		24			

備考：ハイタカの欄の△を付した数字は西行き（所謂逆行）の個体。

網掛けは、各種で比較的多数と思われる記録。

地の間の移動（渡り）を行う。その渡り飛行は、上昇気流を利用して高空に舞い上がり、その後滑空して移動する。そのため、上昇気流のできやすい条件の天気（晴れ）・時間帯（日中）や地形（山上、岬、島）に多くの個体が集中し、これらを結ぶ渡りルートの存在が知られている（タカの渡り観察ガイドブック）（徳島のタカの渡り、1）。

四国では、前回報告した鳴門市から西方へ、讃岐山脈沿いから愛媛県の佐多岬や由良半島へ向かうルートと、徳島県南から高知県へ抜けるルートが、秋の渡りで想定されている（ワシとタカの渡る道、野鳥506、14~15）。過去には1983年10月2日に池田町佐野でサシバ854羽とハチクマ132羽が、2002年9月21日には三野町ふれあいの森でサシバ525羽とハチクマ11羽が記録されている（徳島のタカの渡り、3）。本調査では、前記のルートの再確認を目的に、主に池田町の讃岐山脈沿いで観察した。結果、池田町佐野での2016年9月30日のサシバ1,568羽、池田町洞草での2017年10月26日のノスリ398羽など多数の渡りが確認された。全国の主要な観察地におけるサシバ、ノスリの渡りのピーク時の1日観察記録は100羽以上であり（タカの渡り観察ガイドブック、122~139），あらためて当地が主要なタカ渡りルートであることの再確認ができた。

この他に、京柱峠と土佐矢筈山で、県境を越えて高知県へ向かうサシバの群れも確認されている。

春の渡りでも、サシバ、ハチクマ、ノスリ、ハイタカが観察されたが、ハチクマ以外は観察個体数は少ない。主要な春のルートであるかどうかは今後の課題である。

## 5. 野生哺乳類

2年間の野鳥観察中に、別表2に記載した12種を認めた。この内、ニホンジカは、主に南部山地で多数の観察記録が得られた。2017年7月29日には、東祖谷山村牛の背の広大な笠原で、90頭を越える群れに遭遇した（写真11）。ニホンザルの記録も多く、市全域の林で、個体や群れおよび鳴き声をしばしば確認した。イノシシについては、個体の確認機会は少なかったが、餌を探した痕跡は市内全域で多数観察された。



写真11 笠原で採餌中のシカの集団



写真12 広葉樹斜面上空を飛ぶクマタカ



写真13 湖面を泳ぐオオバン



写真14 ソウシチョウ 枝の中でよく鳴いていた

## 6. 目録

2016年9月から2018年9月までの約24ヶ月間の観察記録と過去の阿波学会記録から、別表1 三好市野鳥目録を作成した。種名、学名および並び順は日本鳥類目録改第7版に従った。今回の調査では17目47科117種（種名の前の右側番号）が記録され、過去の阿波学会調査記録（山城町の野鳥、郷土研究発表会紀要24）、（池田町およびその周辺の野鳥、郷土研究発表会紀要26）、（井川町の鳥類、阿波学会紀要44、61～83）、（三野町の野鳥生息状況、阿波学会紀要49、37～50）、（三好市「旧東祖谷山村」の野鳥生息状況、阿波学会紀要53、43～55）を重ねると、阿波学会調査における三好市の生息記録は17目48科146種（種名の前の左側番号）となった。種名と学名の間にRを付記した種は、国および／または徳島県のレッドリスト掲載種（徳島県レッドリスト改訂版1. 鳥類、徳島県ホームページ（[http://www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red\\_date.html/](http://www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/)））である。レッドデータ掲載種は、今回の調査では絶滅危惧IB類のクマタカ（写真12）など24種を、過去も含めると40種を数える。過去に記録が有りながら今回の調査で確認されなかった29種の内、その約半数の15種がレッドリスト掲載種であり、残りの14種の多くも、県内では元来個体数が少ないか、減少が著しい種である。過去の阿波学会調査記録に無く、一方、今回調査で初めて登場したのは、前述イソヒヨドリのほかホシハジロ、オオバン（写真13）、チゴハヤブサ、コヨシキリ、コムクドリ、オオジュリンの7種であった。

コジュケイ、ドバト、ソウシチョウ（写真14）は前記日本鳥類目録に従い外来種とした。この内、ソウシチョウ（写真14）は、日本の生態系に被害を及ぼす、または及ぼす恐れのある特定外来種（特定外来種生物一覧、環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/nature/info/2outline/list/html>））であり、阿波学会調査では東祖谷山村調査（三好市「旧東祖谷山村」の野鳥生息状況、阿波学会紀要53、43～55）で初めて確認され、その後の調査地でも確認されることが多くなった種である。今回の調査では三好市の広範囲で観察されている。

さらに別添CDには、種名の下の行に各種の代表的な記録を、左から西暦年／月／日、個体数、地名、メッシュ番号、地上標高（m）、環境または行動の内容、の順に記載した。なお、一部の種では、種の保護のため詳細地名とメッシュ番号を不記載とした。

また同様に、野生哺乳類の記録について、日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の現状—脊椎動物編、自然環境研究センターを参考に、別表2 三好市野生哺乳類目録を作成した。

## 参考文献

- 阿南市史編さん委員会（2012）、第四章阿南市の動物 第二節 鳥類、阿南市史5、阿南市、209～221
- 環境庁自然保護局計画課自然環境調査室（1997）：都道府県別 メッシュマップ36徳島県、自然環境研究センター
- 環境庁自然保護局野生生物課（1993）：日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の現状— 脊椎動物編、自然環境研究センター
- 環境省（2018）、特定外来生物一覧、環境省ホームページ（<http://www.env.go.jp/nature/info/2outline/list/html>）
- 小林実（1978）、山城町の野鳥、郷土研究発表会紀要24、45～47
- 小林実ほか（1980）、池田町およびその周辺の野鳥、郷土研究発表会紀要26、91～98
- 志村英雄（1988）、ワシとタカの渡る道、野鳥506、14～15
- 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ（2003）、タカの渡り観察ガイドブック、株式会社 文一総合出版
- 中国四国農政局徳島統計・情報センター（2004）、徳島農林水産統計年報 平成15～16年、徳島県農林水産協会
- 東條秀徳（2003）、三野町の野鳥生息状況、阿波学会紀要49、37～50
- 東條秀徳（2007）、三好市「旧東祖谷山村」の野鳥生息状況、阿波学会紀要53、43～55
- 徳島県（2017）、徳島県鳥獣保護区等位置図（平成29年度）
- 徳島県県民環境部環境総局自然環境課（2011）：徳島県レッドリスト（改訂版）1. 鳥類、徳島県ホームページ（[http://www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red\\_date.html](http://www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html)）。
- 徳島県政策創造部地域振興総局市町村課（2012）、平成24年度 徳島県市町村要覧、16～17
- 日本鳥学会目録編集委員会（2012）、日本鳥類目録改訂第7版、日本鳥学会
- 日本野鳥の会徳島県支部（2003）、徳島のタカの渡り、日本野鳥の会徳島県支部
- 増谷正幸（1998）、井川町の鳥類、阿波学会紀要53、61～83

別表1 三好市野鳥目録

◎ キジ目 GALLIFORMES	○ カモ目 ANSERIFORMES	○ カモ目 COLUMBIFORMES	○ フクロウ目 STRIGIFORMES
○ キジ科 Phasianidae	○ カモ科 Anatidae	○ ハト科 Columbidae	○ フクロウ科 Strigidae
1 ウズラ <b>R</b> <i>Coturnix japonica</i>	4 3 オシドリ <b>R</b> <i>Aix galericulata</i>	11 1 カイツブリ <b>T</b> <i>Tachybaptus ruficollis</i>	53 コノハズク <b>R</b> <i>Otus sunia</i>
2 1 ヤマドリ <b>S</b> <i>Syrmaticus soemmerringii</i>	5 4 オカヨシガモ <b>A</b> <i>Anas strepera</i>	12 10 カイツブリ <b>T</b> <i>Tachybaptus ruficollis</i>	54 フクロウ <b>S</b> <i>Strix uralensis</i>
3 2 キジ <b>P</b> <i>Phasianus colchicus</i>	6 5 ヒドリガモ <b>A</b> <i>Anas penelope</i>	13 11 キジバト <b>S</b> <i>Streptopelia orientalis</i>	55 トラフズク <b>R</b> <i>Asio otus</i>
◎ カモ目 ANSERIFORMES	7 6 マガモ <b>A</b> <i>Anas platyrhynchos</i>	14 12 アオバト <b>T</b> <i>Treron sieboldii</i>	56 40 アオバズク <b>R</b> <i>Ninox scutulata</i>
○ カモ科 Anatidae	8 7 カルガモ <b>A</b> <i>Anas zonorhyncha</i>	15 13 カワウ <b>P</b> <i>Phalacrocorax carbo</i>	○ ブッポウソウ目 CORACIFORMES
4 3 オシドリ <b>R</b> <i>Aix galericulata</i>	9 オナガガモ <b>A</b> <i>Anas acuta</i>	16 サンカノゴイ <b>R</b> <i>Botaurus stellaris</i>	○ カワセミ科 Alcedinidae
5 4 オカヨシガモ <b>A</b> <i>Anas strepera</i>	10 コガモ <b>A</b> <i>Anas crecca</i>	17 ヨシゴイ <b>R</b> <i>Ixobrychus sinensis</i>	57 41 アカショウビン <b>H</b> <i>Halcyon coromanda</i>
6 5 ヒドリガモ <b>A</b> <i>Anas penelope</i>	11 ホシハジロ <b>A</b> <i>Aythya ferina</i>	18 ミヅゴイ <b>R</b> <i>Gorsachius goisagi</i>	58 42 カワセミ <b>A</b> <i>Alcedo atthis</i>
7 6 マガモ <b>A</b> <i>Anas platyrhynchos</i>	12 9 ホシハジロ <b>A</b> <i>Aythya ferina</i>	19 14 ゴイサギ <b>R</b> <i>Nycticorax nycticorax</i>	59 ヤマセミ <b>R</b> <i>Megaceryle lugubris</i>
8 7 カルガモ <b>A</b> <i>Anas zonorhyncha</i>	13 11 キジバト <b>S</b> <i>Streptopelia orientalis</i>	20 15 ササゴイ <b>R</b> <i>Butorides striata</i>	○ ブッポウソウ科 Coraciidae
9 オナガガモ <b>A</b> <i>Anas acuta</i>	14 12 アオバト <b>T</b> <i>Treron sieboldii</i>	21 16 アマサギ <b>B</b> <i>Bubulcus ibis</i>	60 ブッポウソウ <b>R</b> <i>Eurystomus orientalis</i>
10 コガモ <b>A</b> <i>Anas crecca</i>	15 13 カワウ <b>P</b> <i>Phalacrocorax carbo</i>	22 17 アオサギ <b>A</b> <i>Ardea cinerea</i>	○ キツツキ目 PICIFORMES
11 ホシハジロ <b>A</b> <i>Aythya ferina</i>	16 サンカノゴイ <b>R</b> <i>Botaurus stellaris</i>	23 18 ダイサギ <b>A</b> <i>Ardea alba</i>	○ キツツキ科 Picidae
12 10 カイツブリ <b>T</b> <i>Tachybaptus ruficollis</i>	17 ヨシゴイ <b>R</b> <i>Ixobrychus sinensis</i>	24 チュウサギ <b>R</b> <i>Egretta intermedia</i>	61 アリスイ <b>J</b> <i>Jynx torquilla</i>
13 11 キジバト <b>S</b> <i>Streptopelia orientalis</i>	18 ミヅゴイ <b>R</b> <i>Gorsachius goisagi</i>	25 19 コサギ <b>R</b> <i>Egretta garzetta</i>	62 43 コゲラ <b>D</b> <i>Dendrocopos kizuki</i>
14 12 アオバト <b>T</b> <i>Treron sieboldii</i>	19 14 ゴイサギ <b>R</b> <i>Nycticorax nycticorax</i>	○ ツル目 GRUIFORMES	63 44 オオアカゲラ <b>R</b> <i>Dendrocopos leucotos</i>
15 13 カワウ <b>P</b> <i>Phalacrocorax carbo</i>	20 15 ササゴイ <b>R</b> <i>Butorides striata</i>	○ クイナ科 Rallidae	64 45 アカゲラ <b>D</b> <i>Dendrocopos major</i>
16 サンカノゴイ <b>R</b> <i>Botaurus stellaris</i>	21 16 アマサギ <b>B</b> <i>Bubulcus ibis</i>	26 ヒクイナ <b>R</b> <i>Porzana fusca</i>	65 46 アオゲラ <b>P</b> <i>Picus awokera</i>
17 ヨシゴイ <b>R</b> <i>Ixobrychus sinensis</i>	22 アオサギ <b>A</b> <i>Ardea cinerea</i>	27 バン <b>R</b> <i>Gallinula chloropus</i>	○ ハヤブサ目 FALCONIFORMES
18 ミヅゴイ <b>R</b> <i>Gorsachius goisagi</i>	23 ツツドリ <b>C</b> <i>Cuculus optatus</i>	28 20 オオバン <b>R</b> <i>Fulica atra</i>	○ ハヤブサ科 Falconidae
19 14 ゴイサギ <b>R</b> <i>Nycticorax nycticorax</i>	24 カッコウ <b>C</b> <i>Cuculus canorus</i>	66 47 チョウゲンボウ <b>F</b> <i>Falco tinnunculus</i>	66 47 チョウゲンボウ <b>F</b> <i>Falco tinnunculus</i>
20 15 ササゴイ <b>R</b> <i>Butorides striata</i>	25 24 カッコウ <b>C</b> <i>Cuculus canorus</i>	67 48 チゴハヤブサ <b>F</b> <i>Falco subbuteo</i>	67 48 チゴハヤブサ <b>F</b> <i>Falco subbuteo</i>
21 16 アマサギ <b>B</b> <i>Bubulcus ibis</i>	○ カッコウ目 CUCULIFORMES	68 49 ハヤブサ <b>R</b> <i>Falco peregrinus</i>	68 49 ハヤブサ <b>R</b> <i>Falco peregrinus</i>
22 17 アオサギ <b>A</b> <i>Ardea cinerea</i>	○ カッコウ科 Cuculidae	○ スズメ目 PASSERIFORMES	○ サズメ目 PASSERIFORMES
23 18 ダイサギ <b>A</b> <i>Ardea alba</i>	29 21 ジュウイチ <b>R</b> <i>Hierococcyx hyperythrus</i>	○ ヤイロチョウ科 Pittidae	○ ヤイロチョウ科 Pittidae
24 チュウサギ <b>R</b> <i>Egretta intermedia</i>	30 22 ホトトギス <b>C</b> <i>Cuculus poliocephalus</i>	69 ヤイロチョウ <b>R</b> <i>Pitta nympha</i>	69 ヤイロチョウ <b>R</b> <i>Pitta nympha</i>
25 19 コサギ <b>R</b> <i>Egretta garzetta</i>	31 23 ツツドリ <b>C</b> <i>Cuculus optatus</i>	○ サンショウクイ科 Campephagidae	○ サンショウクイ科 Campephagidae
○ ツル目 GRUIFORMES	32 24 カッコウ <b>C</b> <i>Cuculus canorus</i>	70 50 サンショウクイ <b>P</b> <i>Pericrocotus divaricatus</i>	70 50 サンショウクイ <b>P</b> <i>Pericrocotus divaricatus</i>
○ クイナ科 Rallidae	○ ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES	○ カササギヒタキ科 Monarchidae	○ カササギヒタキ科 Monarchidae
26 ヒクイナ <b>R</b> <i>Porzana fusca</i>	○ ヨタカ科 Caprimulgidae	71 51 サンコウチョウ <b>R</b> <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	71 51 サンコウチョウ <b>R</b> <i>Terpsiphone atrocaudata</i>
27 バン <b>R</b> <i>Gallinula chloropus</i>	33 25 ヨタカ <b>R</b> <i>Caprimulgus indicus</i>	○ モズ科 Laniidae	○ モズ科 Laniidae
28 20 オオバン <b>R</b> <i>Fulica atra</i>	○ アマツバメ目 APODIFORMES	72 52 モズ <b>L</b> <i>Lanius bucephalus</i>	72 52 モズ <b>L</b> <i>Lanius bucephalus</i>
○ カッコウ目 CUCULIFORMES	○ ヨタカ科 Caprimulgidae	○ カラス科 Corvidae	○ カラス科 Corvidae
○ カッコウ科 Cuculidae	33 25 ヨタカ <b>R</b> <i>Caprimulgus indicus</i>	73 53 カケス <b>G</b> <i>Garrulus glandarius</i>	73 53 カケス <b>G</b> <i>Garrulus glandarius</i>
29 21 ジュウイチ <b>R</b> <i>Hierococcyx hyperythrus</i>	○ アマツバメ目 APODIFORMES	74 ホシガラス <b>R</b> <i>Nucifraga caryocatactes</i>	74 ホシガラス <b>R</b> <i>Nucifraga caryocatactes</i>
30 22 ホトトギス <b>C</b> <i>Cuculus poliocephalus</i>	○ アマツバメ科 Apodidae	75 54 ハシボソガラス <b>C</b> <i>Corvus corone</i>	75 54 ハシボソガラス <b>C</b> <i>Corvus corone</i>
31 23 ツツドリ <b>C</b> <i>Cuculus optatus</i>	34 ハリオアマツバメ <b>H</b> <i>Hirundus caudacutus</i>	76 55 ハシブトガラス <b>C</b> <i>Corvus macrorhynchos</i>	76 55 ハシブトガラス <b>C</b> <i>Corvus macrorhynchos</i>
32 24 カッコウ <b>C</b> <i>Cuculus canorus</i>	35 26 アマツバメ <b>A</b> <i>Apus pacificus</i>	○ キクイタダキ科 Regulidae	○ キクイタダキ科 Regulidae
○ ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES	○ アマツバメ科 Apodidae	77 56 キクイタダキ <b>R</b> <i>Regulus regulus</i>	77 56 キクイタダキ <b>R</b> <i>Regulus regulus</i>
○ ヨタカ科 Caprimulgidae	34 ハリオアマツバメ <b>H</b> <i>Hirundus caudacutus</i>	○ シジュウカラ科 Paridae	○ シジュウカラ科 Paridae
33 25 ヨタカ <b>R</b> <i>Caprimulgus indicus</i>	35 26 アマツバメ <b>A</b> <i>Apus pacificus</i>	78 57 コガラ <b>P</b> <i>Poecile montanus</i>	78 57 コガラ <b>P</b> <i>Poecile montanus</i>
○ チドリ目 CHARADRIIFORMES	○ チドリ科 Charadriidae	79 58 ヤマガラ <b>P</b> <i>Poecile varius</i>	79 58 ヤマガラ <b>P</b> <i>Poecile varius</i>
○ チドリ科 Charadriidae	36 27 イカルチドリ <b>R</b> <i>Charadrius placidus</i>	80 59 ヒガラ <b>P</b> <i>Periparus ater</i>	80 59 ヒガラ <b>P</b> <i>Periparus ater</i>
36 27 イカルチドリ <b>R</b> <i>Charadrius placidus</i>	37 28 コチドリ <b>R</b> <i>Charadrius dubius</i>	81 60 シジュウカラ <b>P</b> <i>Parus minor</i>	81 60 シジュウカラ <b>P</b> <i>Parus minor</i>
○ シギ科 Scolopacidae	38 ヤマシギ <b>R</b> <i>Scolopax rusticola</i>	○ ヒバリ科 Alaudidae	○ ヒバリ科 Alaudidae
39 タシギ <b>R</b> <i>Gallinago gallinago</i>	39 クサシギ <b>R</b> <i>Tringa ochropus</i>	82 61 ヒバリ <b>A</b> <i>Alauda arvensis</i>	82 61 ヒバリ <b>A</b> <i>Alauda arvensis</i>
40 クサシギ <b>R</b> <i>Tringa ochropus</i>	41 キアシシギ <b>R</b> <i>Heteroscelus brevipes</i>	○ ツバメ科 Hirundinidae	○ ツバメ科 Hirundinidae
41 キアシシギ <b>R</b> <i>Heteroscelus brevipes</i>	42 29 イソシギ <b>R</b> <i>Actitis hypoleucos</i>	83 62 ツバメ <b>H</b> <i>Hirundo rustica</i>	83 62 ツバメ <b>H</b> <i>Hirundo rustica</i>
42 29 イソシギ <b>R</b> <i>Actitis hypoleucos</i>		84 63 コシアカツバメ <b>H</b> <i>Hirundo daurica</i>	84 63 コシアカツバメ <b>H</b> <i>Hirundo daurica</i>
		85 64 イワツバメ <b>D</b> <i>Delichon dasypus</i>	85 64 イワツバメ <b>D</b> <i>Delichon dasypus</i>

○ ヒヨドリ科 Pycnonotidae	○ イワヒバリ科 Prunellidae
86 65 ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	124 98 カヤクグリ <b>R</b> <i>Prunella rubida</i>
○ ウグイス科 Sylviidae	○ スズメ科 Passeridae
87 66 ウグイス <i>Cettia diphone</i>	125 99 スズメ <i>Passer montanus</i>
88 67 ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>	○ セキレイ科 Motacillidae
○ エナガ科 Aegithalidae	126 100 キセキレイ
89 68 エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	127 101 ハクセキレイ
○ ムシクイ科 Phylloscopidae	128 102 セグロセキレイ
90 69 メボソムシクイ <b>R</b> <i>Phylloscopus xanthodryas</i>	129 103 ビンズイ
91 エゾムシクイ <b>R</b> <i>Phylloscopus borealoides</i>	130 104 タヒバリ
92 70 センダイムシクイ <i>Phylloscopus coronatus</i>	○ アトリ科 Fringillidae
○ メジロ科 Zosteropidae	131 105 アトリ
93 71 メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	132 106 カワラヒワ
○ ヨシキリ科 Acrocephalidae	133 107 マヒワ
94 シマセンニユウ <i>Locustella oocotensis</i>	134 ハギマシコ
95 72 オオヨシキリ <i>Acrocephalus orientalis</i>	135 108 ベニマシコ
96 73 コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	136 オオマシコ
○ セッカ科 Cisticolidae	137 イスカ
97 74 セッカ <i>Cisticola juncidis</i>	138 109 ウソ
○ レンジャク科 Bombycillidae	139 シメ
98 75 キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>	140 110 イカル
99 76 ヒレンジャク <i>Bombycilla japonica</i>	○ ホオジロ科 Emberizidae
○ ゴジュウカラ科 Sittidae	141 112 ホオアカ
100 77 ゴジュウカラ <i>Sitta europaea</i>	142 113 カシラダカ
○ キバシリ科 Certhiidae	143 114 ミヤマホオジロ
101 78 キバシリ <b>R</b> <i>Certhia familiaris</i>	144 115 アオジ
○ ミソサザイ科 Troglodytidae	145 116 クロジ
102 79 ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>	146 117 オオジユリン
○ ムクドリ科 Sturnidae	○ 外来種
103 80 ムクドリ <i>Spodiopsar cineraceus</i>	1 1 コジュケイ
104 81 コムクドリ <i>Agropsar philippensis</i>	2 2 ドバト
○ カワガラス科 Cinclidae	3 3 ソウシショウ
105 82 カワガラス <i>Cinclus pallasi</i>	別表2 三好市野生哺乳類目録
○ ヒタキ科 Muscicapidae	1 1 デネズミ [モグラ目(食虫目)トガリネズミ科]
106 マミジロ <i>Zoothera sibirica</i>	2 ヒミズ [モグラ目(食虫目)モグラ科]
107 83 トラツグミ <b>R</b> <i>Zoothera dauma</i>	3 2 ニホンザル [サル目(霊長目)オナガザル科]
108 84 クロツグミ <i>Turdus cardis</i>	4 3 ノウサギ [ウサギ目ウサギ科]
109 マミチャジナイ <i>Turdus obscurus</i>	5 4 ニホンリス [ネズミ目(齧歯目)リス科]
110 85 シロハラ <i>Turdus pallidus</i>	6 5 ムササビ [ネズミ目(齧歯目)リス科]
111 86 アカハラ <b>R</b> <i>Turdus chrysolaus</i>	7 6 タヌキ [ネコ目(食肉目)イヌ科]
112 87 ツグミ <i>Turdus naumanni</i>	8 7 イタチ [ネコ目(食肉目)イタチ科]
113 88 コマドリ <b>R</b> <i>Luscinia akahige</i>	9 8 アナグマ [ネコ目(食肉目)イタチ科]
114 ノゴマ <i>Luscinia calliope</i>	10 9 ハクビシン [ネコ目(食肉目)ジャコウネコ科]
115 89 コルリ <i>Luscinia cyane</i>	11 10 イノシシ [ウシ目(偶蹄目)イノシシ科]
116 90 ルリビタキ <b>R</b> <i>Tarsiger cyanurus</i>	12 11 ニホンジカ [ウシ目(偶蹄目)シカ科]
117 91 ジョウビタキ <i>Phoenicurus auroreus</i>	13 12 ニホンカモシカ [ウシ目(偶蹄目)ウシ科]
118 92 ノビタキ <i>Saxicola torquatus</i>	
119 93 イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>	
120 94 エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>	
121 95 コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>	
122 96 キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>	
123 97 オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	

## Status of Wild Birds in Miyoshi City

TOUJOU Hidenori\*, KASAI Tadashi, TAKAI Masaaki, TOMIMINE Yasuyo, MITSUI Masao, MITSUI Yoshimasa, MIYAKE Takeru, YAMAGUCHI Haruko and YONEDA Yasuko

\* 24-77, Sangenacho-soto, Tokushima 770-8025, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.62 (2019), pp.25-34.